

## 巡検報告

# 風 布 巡 検

近 藤 優 子

後期試験を終えて間もない2月21日に、1年生にとって2回目の巡検である風布巡検が、三上先生と青島朋子さん指導のもとに行なわれた。

この巡検の主な目的は、気温の逆転と山腹の温暖帯について、実際にそれが起こりやすい場所で気温を観測することによって理解を深め、同時にアスマン式乾湿計の使用法を体得することと、この地形と気候の特色を生かした観光みかん園の見学と経営者の宮下さんからの聞きとり調査である。

観測地である風布へは、まず東武東上線で寄居駅まで行き、秩父鉄道に乗り換えて波久礼駅で降り、ここから車で現地へ到着した。各班3人ずつの5つの班が、各班で決めた約10地点の気温をアスマン式乾湿計で計り、クリノメーターで各地点の斜面方位を調べ、周辺状況や地表面の状態も記録していく。あとの2つの班が、移動観測の出発点とみかん園付近の2カ所の定点の気温を3分間隔で記録していくという調査が予定通り10時ちょうどに開始された。気温の逆転は快晴の明け方前によく起こるものだけに10時すぎでは遅いし、観

測も未熟なため良い結果は得られなかったが、アスマン式乾湿計に慣れ親しむことができたのが収穫と言えよう。

昼近くになって曇り空から雨になってしまい、昼食はみかん園の宮下さんのお宅の中でとらせていただいた。昼食後に観光みかん園の歴史と現状や問題点などをうかがった。他の場所より最低気温が高く、秩父鉄道とタイアップしたPRで観光客が呼べ、東京から比較的近いという多くの有利な条件に支えられている風布みかん園の発展ぶりや、厳冬・冷夏等の気候変動による被害や後継者不足が他の農業経営と共通した避けられない難問であることなどがわかった。

おみやげに小さいみかんを下さった宮下さん、そして調査に不慣れな私達を優しく指導して下さった三上先生と青島さんに深く感謝するとともにこの巡検で得たことを今後の勉強に生かしてゆきたいと思う。

(2月21日 三上教官指導)

# 三 浦 半 島 巡 検

武 田 栄 子

2年生の最後に行なわれた巡検は、三浦半島とその先にある城ヶ島だった。

まず京浜急行「三浦海岸駅」に集合し、夏はスイカ、冬はダイコンで有名な段丘地をバスに乗って通り過ぎ、油壺へ向かった。油壺の船着場付近は、美しい奇岩でうずめられている。この海岸の岩石は、岩渚が目だつ油壺火砕岩層で、北方で初声層と接している。この層は、白色のシルト層にスコリア(火山岩の破片)をたくさん含む黒色の地層がはさまれている。冬の平日であり、観光シーズンでもないので人影はまばらで、海岸を歩い

ていると、この地形を作りあげた自然の力をはっきりと見せつけられたような気がした。

私たちは油壺から遊覧船に乗り、城ヶ島を海から眺めた。城ヶ島は北原白秋の詩でよく知られている。船から見える城ヶ島は、白と黒のしま模様地層が太平洋の荒波によって浸食され、様々な海食地形を作っていた。船を降りて赤羽根岬あたりを実際に歩いてみた。赤羽根岬には、背洞門と呼ばれている大きな海食洞があった。海食洞を初めて見て波の力の大きさにあらためて驚いた。このあたりは初声層であり、黄かっ色の凝灰質砂岩